

とっとり健康省エネ住宅の性能基準(案)に係るパブリックコメントの実施結果について

令和2年1月21日
住まいまちづくり課

とっとり健康省エネ住宅の性能基準(案)に係るパブリックコメントを実施したので、その結果を報告する。

1 実施結果

- (1) 意見募集期間 令和2年1月7日(火)から1月17日(金)まで
- (2) 周知方法等
 - ・ホームページへの掲載
 - ・県庁県民参画協働課、各総合事務所、市町村役場窓口等におけるチラシの配架
- (3) 受付意見数 9件(6人)

2 意見及びその対応方針

対応の区分は、盛込済(◎) 一部盛込済(○) 今後検討(△) その他(—)

項目	意見の内容	対応方針	対応
普及	T-G2を当面の目標とし、まずはT-G1をクリアする住宅を増やす政策(補助金、税制優遇、銀行融資優遇等)と両輪で普及させてほしい。	補助制度創設を検討するほか、金利優遇については金融機関に相談してみたい。	△
普及	断熱工事費回収年数としては住宅ローン控除期間内(13年間)でペイできると考えればT-G1が普及しやすいと感じる。	建設費ではT-G1が優れているが、居住年数が長くなるほどT-G2やT-G3の方が有利になるので、わかりやすく示すよう検討する。	◎
普及	世間は“省エネ基準”という言葉だけで難しいと考えるので、親しみやすいPR動画やライフスタイルとして「省エネがイケてる」とイメージさせる講演会を開催してほしい。PR動画は工務店の販売促進にも利用できるようYouTube等でも公開すればよいと思う。	健康省エネ住宅のメリット(健康、コスト等)を消費者にわかりやすく伝えられるよう動画等の活用を検討し、動画は販売促進など幅広く活用してもらえるよう公開方法は検討する。	△
基準	T-G1、T-G2、T-G3はHEAT20の水準と間違えやすい。6地域はU _A 値0.48以下、5及び4地域はU _A 値0.34以下が良いと思う。U _A 値0.34以下になれば充填断熱に加え、付加断熱が必要であり、断熱材、施工方法、外壁材の選定等ほとんどマニュアルがない。性能が高い住宅に多く補助金を出してほしい。	現行法の地域は旧市町村単位で区分されているが、同一市町村内で気象条件が大きく異なる地域があるため、経済性を考慮して地域区分を設けない断熱・気密性能の基準としている。補助金については性能に応じて金額差を設けることを検討する。	○
認証	認証の仕組みはBELS(省エネ性能を第三者評価機関が評価し認定する制度の一つ)に統一してほしい。	本基準ではBELSにない気密性能の基準を設けているほか、認証審査においては、基準の審査に加え、入居者に対する住まい方の説明なども確認するため、県独自の認証制度として運用する。	—
基準	3段階の基準を作った意図は何か。高い断熱性能の住宅にはお金がかかるというだけの説明に映る。高い性能にはそれに見合う価値があるはずであり、その価値をしっかりと示して、鳥取から環境立国日本を牽引してほしい。	T-G2、T-G3は、T-G1に比べてCO2削減快適性、健康への効果において優れており、今後基準をPRしていく上ではわかりやすく示す。	△
普及	医療費の削減、地球温暖化を防ぐ、住宅の資産価値の見える化などにより質の良い住宅ストックが増え長期的に資産が減らない。素晴らしい取り組み。優良ストックの形成は空き家問題も改善できる。健康省エネ住宅を建てる場合には解体費に助成が出るとか、新規の分譲に規制を掛けてはどうか。	国が2020年度からの省エネ基準の義務化見送っていることから、新築時の補助制度を検討し、普及策を通じて健康省エネ住宅の建築を誘導していく。	—
基準	外皮計算では縁側の断熱効果を適切評価してほしい。日常使用しない室はカーテンが閉め切ってあればある程度の遮熱効果はあると思う。庇の出による日射取得と遮蔽が考慮できる評価としてほしい。	外皮熱貫流率の計算方法は国の省エネ基準によることとしている。庇の出については日射取得係数に反映されるが、本件の基準では指標として採用していない。	—
基準	庇の出による日射取得と遮蔽が考慮できる評価としてほしい。	庇の出による日射取得・遮蔽の基準は指標としていないが、設計者・工務店への技術研修では日射取得・遮蔽の重要性を内容に盛り込む予定としている。	—
基準	県が省エネ住宅の普及を進めること、基準案の策定内容、ともに大いに賛成。ただ、日当たりの良い立地で朝の陽を浴びて起床することの快適さ、健康面でのよさは、建物の断熱性能の向上だけでは得られない。例えば立地条件による補正を加味するなどの工夫があればさらに良いのではと思う。	基準は断熱性能と気密性能の指標としているが、設計者・工務店への技術研修を予定している。技術研修では単なる性能値のみではなく、日射取得の重要性をはじめ、設計の考え方や施工上の留意点なども盛り込む予定としている。	○

3 今後のスケジュール(予定)

令和2年1月下旬 パブリックコメントの実施結果を県ホームページで公表

第10回県政参画電子アンケート 「とっとり健康省エネ住宅の性能基準の策定」に関するアンケート

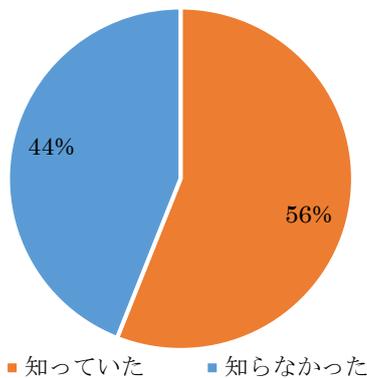
鳥取県では国の省エネ基準を上回る高い省エネ性能を持つ住宅を普及させることで、県民の健康の維持・増進、省エネ化の推進及びCO₂の削減を図ることを目的に、戸建住宅の新築における県独自の健康省エネ住宅性能基準の策定を進めています。基準策定及び今後の普及施策に関する電子アンケートを行ったところ474人の方に御回答いただきましたので、その結果を報告します。

問1

断熱性が高い住宅は、省エネだけでなく次のような健康面への効果があることはご存じでしたか。

- 冬期に室温が下がりにくいので血圧上昇を抑制し、住戸内での温度差が少ないのでヒートショックの予防につながります。
- 結露の減少によるカビ、ダニの発生改善により、アトピー、アレルギー症状の改善に有効です。
- 年中、快適な室温になることにより住戸内での運動量が増加します

- 1 知っていた
- 2 知らなかった



問2

欧米では、日本に比べて高い省エネ基準への適合が義務付けられていることをご存じでしたか。

<健康省エネ住宅性能基準(案)>

区分	指標	国の省エネ基準	健康省エネ住宅性能基準(案)		
			TG-1	TG-2	TG-3
断熱	外皮平均熱貫流率 U_A 値 ($W/m^2 \cdot K$)	0.87	0.48	0.34	0.23
気密	隙間相当面積 C 値 ($c m^2/m^2$)	基準なし	1.0	1.0	1.0

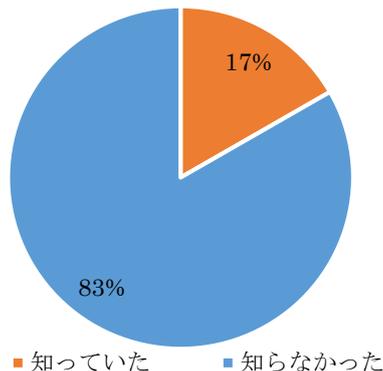
世界の省エネ基準 (U_A 値) との比較

日本の省エネ基準への適合は努力義務だが、欧米は義務化されている

- 日本 (0.87)
- ドイツ (0.40)
- 英国 (0.42)
- 米国 (0.43)
- フランス (0.36)

断熱 (U_A 値) : 建物内の熱が外部に逃げる割合を示す指標。値が小さいほど熱が逃げにくく、省エネ性能が高い。
 気密 (C 値) : 建物の床面積当りの隙間面積を示す指標。値が小さいほど気密性が高い。(国の省エネ基準(平成11年)では $5.0cm^2/m^2$)

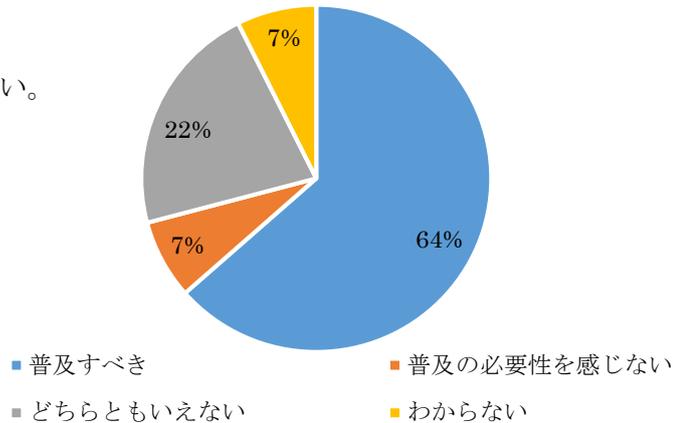
- 1 知っていた
- 2 知らなかった



問3

国の省エネ基準を上回る、欧米と同等以上の省エネ基準（健康省エネ住宅性能基準）を県として定めて、普及を図ることについてどう思いますか。（問2の図を参照）

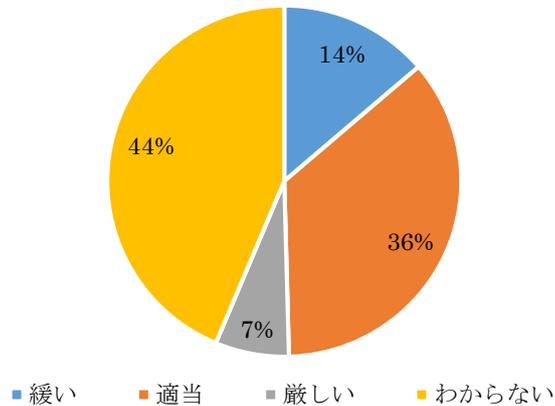
- 1 普及すべき。
- 2 普及の必要性を感じない。
- 3 どちらともいえない。
- 4 わからない。



問4

健康省エネ住宅性能基準（案）の水準についてどう思いますか。（問2の図を参照）

- 1 緩い。
- 2 適当。
- 3 厳しい。
- 4 わからない。



問5

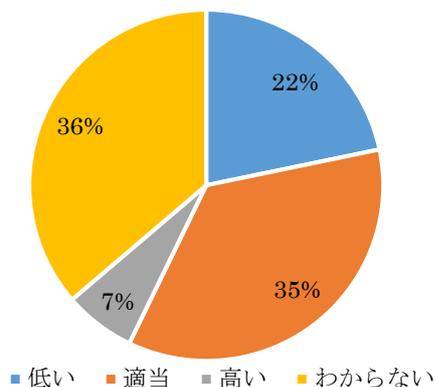
健康省エネ住宅の普及目標についてどう思いますか。

年間新築着工戸数に対する健康省エネ住宅戸数の割合を2025年度までに3割に引き上げる。

	2018 (H30)	2021 (R3)	2023 (R5)	2025 (R7)
性能基準適合住宅着工戸数	150戸	250戸	370戸	480戸
性能基準適合住宅着工割合	9%	16%	23%	30%

※ 県内における直近5年間の戸建て住宅の新築着工戸数は年間平均1,450戸

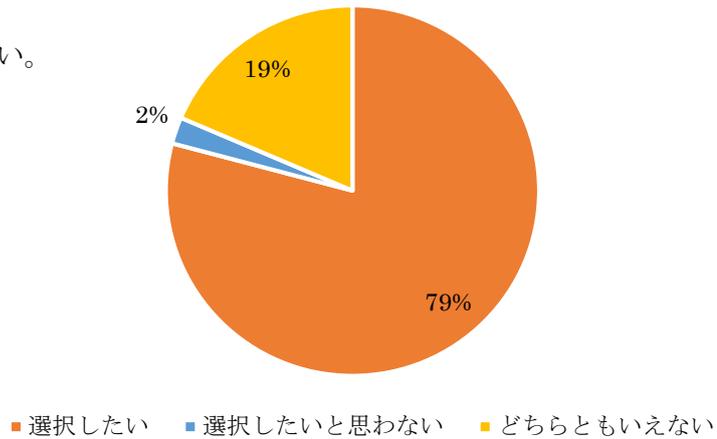
- 1 低い。
- 2 適当。
- 3 高い。
- 4 わからない。



問6

家を建てるとしたら、健康省エネ住宅性能基準を満たす住宅を選択したいと思いますか。

- 1 選択したい。
- 2 選択したいとは思わない。
- 3 どちらともいえない。



問7

家を建てる場合に、健康省エネ住宅を選択してもらうために何が必要だと思いますか。

